

一部 山田・八木組 孝諏訪免・岡組

バドミントン夏季オープン大会

習志野市バドミントン夏季オープン大会が6月30日、袖ヶ浦体育館で開かれた。

1部から3部のほか、60歳以上と70歳以上の部も設けられた。男子1部は山田・八木組、女子1部は諏訪免・岡組が優勝を果たした。

大会結果は次の通り。

▽1部決勝トーナメント

①山田・八木(勤労クラブ) ②北郷・工藤(熊連/伊東市クラブ) ③新井・長山(勤労クラブ/一般)

▽2部決勝トーナメント

①津島・新井(一般) ②中村・武田(一般) ③鎌田・山田(千葉工業大学)

▽3部決勝トーナメント

①小川・菊地(葛飾ユナイテッド) ②岡田・小松(千葉市立千葉高校) ③秋山・石川(千葉工業大学)

男子の部

▽1部決勝トーナメント

山田・八木組

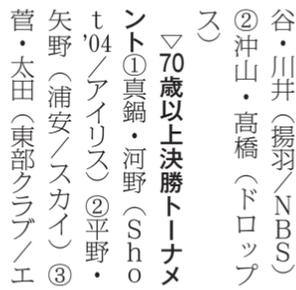


諏訪免・岡組



▽3部決勝トーナメント

諏訪免・岡組



市総体バウンドテニス 第3回習志野バウンドテニスオープン大会 甲斐田会長「会員増目指す」



各順位リーグの入賞者



1位リーグの対戦

習志野市制施行70周年記念・第58回習志野市市民総合体育大会バウンドテニス競技第3回習志野バウンドテニスオープン大会が7月28日、東部体育館で開かれた。

オープン参加へ門戸を広げて3回目。本格的な大会運営となり、参加者は72名に増えた。開会式では習志野市スポーツ協会の伊藤寛会長、小原隆教育長、来賓の宮本市長、佐々木秀一市議会議長がさらなるスポーツ振興に期待を寄せた。

習志野市バウンドテニス協会の甲斐田竜司会長は「競技を追求する選手、生涯スポーツとして取り組む選手、どちらも大事だと思

いますが、他市の取り組みを参考に、競技人口を増やしたい。コロナ禍で減った小学生たちも受け入れられるように、親子体験会を催し、今後多くの人を招き、いろいろな人と交流できる機会にしたい」と会員増を目指す考え。

大会は予選リーグと1位から6位にわかれたの順位別リーグで戦われた。

1位リーグの上位入賞者は次の通り。

▽1位リーグ①福田剛之②島田紅梨③岡本晃治

大相撲9月場所は9月22日、千秋楽を迎えた。新入幕の阿武烈関は3日目に高安を破って初白星。連敗もあったが、終盤に3連勝し7勝8敗とした。十両筆頭の阿武咲関は足のケガのため5日目から休場。幕下勢の勝ち越しは二本柳、土佐緑の両力士。道颯は休場。

新入幕・阿武烈 7勝8敗 大相撲9月場所

阿武松部屋力士9月場所成績表 東京・両国国技館 9月8日～22日

	ひこ名	結果
幕内	西14枚目 ● 阿武烈	7勝8敗
	西筆頭 ● 阿武咲	1勝4敗10休
幕下	西10枚目 ● 勇磨	2勝5敗
	東23枚目 ○ 二本柳	4勝3敗
	東30枚目 ○ 土佐緑	4勝3敗
	東47枚目 ● 秋良	3勝4敗
三段目	東20枚目 ● 荒雄山	2勝5敗
	西45枚目 ● 隆志	3勝4敗
	東67枚目 ● 大志松	3勝4敗
	東74枚目 ● 稲葉	2勝5敗
	東88枚目 ● 関本	3勝4敗
序二段	西2枚目 ● 禎ノ花	2勝5敗
	東13枚目 ○ 益湊	4勝3敗
	東50枚目 ● 大天真	3勝4敗
三	東13枚目 道颯	休 場

核兵器廃絶と恒久平和願

原爆死没者慰霊・平和祈念式典

令和6年度習志野市原爆死没者慰霊および平和祈念式典が8月6日と9日、新習志野市民館で開かれた。

習志野市は1982(昭和57)年8月5日、県内では初めて「核兵器廃絶平和都市」を宣言した。毎年、亡くなられた方々を悼み、恒久平和を祈念するため式典を催し、公民館などで原爆に関する資料の展示を行っている。

特に平和の尊さを次代に

引き継ぐため、学校での被爆体験講話のほか、中学生、高校生らを団員とした「平和市民代表団」を派遣している。代表団は広島市、長崎市を交互に訪れ、現地で慰霊式に参列し、被爆者からの講話を聞くほか、若者同士の交流の機会を持つといった体験をしている。

両日の式典で宮本市長は多くの犠牲者に哀悼の意を表し、習志野市の「核兵器



献花台に白菊を捧げ祈る(8月6日⑤、8月9日⑥)



「語り継ぐ原爆」

習志野の小さな風の会

習志野の小さな風の会による「習志野で語り継ぐ原爆」が8月8日、プラッツ習志野で開かれた。

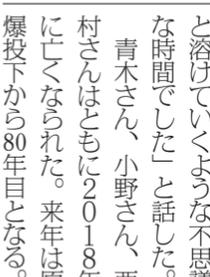
小さな風の会は、原子爆弾投下による悲惨さを風化させないでほしいと、原爆被爆者の体験を語り継ぐ活動を2010年から行っている。約40人が集まり、市内の小中学校で原爆被爆者としての体験を語った青木茂さんと小野英子さんが、習志野市協働政策課制作のDVDの上映と解説で紹介された。

青木さんは20歳の時、長崎市で被爆した。語り部となり、平和の尊さを訴えた。小野さんは広島市の爆心地から約1.5kmの自宅で被爆。父親と姉を亡くした。放射能を浴びた影響によって、甲状腺の腫瘍や眼症、白血球過多などで苦しめられた。実母の山本信子さんが英文で書いた被爆体験記録を見つけて、和訳して『炎のメモリアル』と題して出版した。小野さんの被爆体験と戦時下の母子の暮らしは、小さな風の会の央康子による絵本『さいごの

あさごぼん』の朗読でも伝えられた。

西村桂子さんは義父の西村利信さんの最期の姿と手記をまとめた冊子『原爆体験記』の制作過程について、土屋誠さんによる体験記の朗読を交えながら話した。利信さんは旧制広島第二中学校2年生で被爆した。千葉高校文学クラブの『道程』誌に収められていた方々の御陰で、さらさらと溶けていくような不思議な時間でした」と話した。

青木さん、小野さん、西村さんともに2018年に亡くなられた。来年は原爆投下から80年目となる。



西村桂子さん

未来に向けて平和を築いていく責任があります。私共学んだことを皆さんと共有することで、少しでも平和への意識が広がればと願っています」とスピーチ。細山さんは「過去と向き合い現在(いま)に生かし希望ある未来を繋ぐ、その先に平和は訪れる」と「繋ぐ」と題した詩を結んだ。

今年度の代表団は広島市を訪れた。団員の小菅菜弥さんは資料館などを訪れて、これまで思っていたこととの違いに、実際に経験する大切さを感じたと話した。

【今年度平和市民代表団 ※敬称略】齋藤路子(習志野市原爆被爆者の会) 田中柊輔(第四中学校教諭) 平川智規(一中) 田中ちより(二中) 各務紘斗(三中) 伴悠羽(四中) 宮下寛司(五中) 近藤駿介(六中) 小菅菜弥(七中) 木堂亜衣理(実科高校) 中村由佳(東邦高校)